



ケレキトゥ

民謡や伝統的音楽のリズムに合わせて母子がスキンシップを図り、子どもの情操面を育む音楽教室——ケレキトゥが人気を集めている。

古くて新しい 子育て術

「民謡は音楽教育に最適な教材だ」——20世紀のハンガリーの作曲家で、音楽教育メソッドでも有名なコダーイ・ゾルターンという言葉だ。音楽教育先進国ハンガリーでは、古くから音楽によって子どもの感性や思考、そして社会性を磨く子育てが行われてきた。

生後3歳までの環境が子どもの発育に重要であるといわれるが、ハンガリーでも0～3歳児を対象とした水泳や英語、ヨガなどが人気だ。だが一方で、伝統的な子育て手法をベースに子どもの情操面を育む音楽教室「ケレキトゥ」が幅広い人気を集めている。教室ではお母さんが歌やリズムに合わせて赤ちゃんの体を動かすなどして、スキンシップを図る。

ケレキトゥは2009年にJ・コバーチ・ユディットさんが始めた。ブダペスト在住の3人の子どもを持つお母さんだ。教室名のケレキトゥは造語で、子ども向け詩集のタイトルに由来したもの。ケレクはハンガリー語で「円」を意味し、お母さんが赤ちゃんを抱くことや幸せになることをイメージさせるという。

ケレキトゥは、ユディットさんが子ども向けに30の伝承民謡やリス

ムを本にまとめたことがきっかけとなり始まった。この本には、赤ちゃんを揺らす、膝の上に乗せる、キスする、くすぐるなど、お母さんが赤ちゃんにすべきことが簡潔に記されている。こうした赤ちゃんとお母さんの触れ合いに、伝統音楽やリズムが掛け合わさり、音楽教室へと発展していったのである。

核家族化が ビジネスを後押し

ケレキトゥは、スタートした当初は30カ所、15人のトレーナーにより行われていただけであった。それが年々拡大。今ではルーマニアやスロバキアなどの周辺国に住むハンガリー系住民の間にも浸透し、70人のトレーナーにより120カ所、180のクラスが行われている。

教室は三つのタイプに分かれる。①子どもがお母さんの膝の上でリズムや歌に合わせながら楽しむコース、②専用の人形や跳躍器具などを使いながら、リズムや歌で母子がコミュニケーションを図るコース、③お母さんに助けをもらいながら昔ながらのダンスに挑戦するコース。

対象は0～3歳児だが②のみ1歳児から。地域のスポーツセンター



専用の人形でコミュニケーションを図る

や文化センターを借りて週に1～2回、30～40分のコースで行われる。

「赤ちゃんが他の赤ちゃんとリラックスして一緒に遊んで楽しむ」「お母さんの産後鬱防止につながっ

ている」といった声が聞かれる。第1子で効果を実感した母親が、第2子も第3子もとリピーターになる。こうして人気は拡大した。

ケレキトゥが対象とする0～3歳児は、国が育児休暇を認める期間とも一致する。かつて3世代が同居していた時代には祖母が育児を手伝った。赤ちゃんを膝の上であやす伝統的な方法も、祖母から母親へと自然に伝承された。しかし平均出生率が1.44と少子化が進み、一人っ子の家庭も少なくないハンガリーでは、伝統的な方法で赤ちゃんをあやすのは、母親にとって貴重な体験となつつある。ケレキトゥは核家族化、少子化社会が生んだビジネスともいえよう。

Js

(本田 雅英/ジェットロ ブダペスト事務所長、バラジ・ラウラ/同事務所)